

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会  
「平成19年度 第1回 議事録」

日時	平成19年5月25日(金) 13:30～18:10		場所	地盤工学会会議室	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了		委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康		委員(WG2)	川口 正人 (代理:野田典広)	
委員(WG2)	太田 岳洋	×	委員(WG3)	渡部 要一	
委員(WG3)	山本 肇	×	委員(WG4)	仙頭 紀明	
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	
委員(WG5)	大窪 克己		委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG7)	三谷 泰浩		委員(WG8)	石川 達也	×
オブザーバー	木幡 行宏				

:出席 :代理出席 ×:欠席  
議事録担当:豊田浩史 幹事

配布資料:

- 資料 19-1-1 :「岩盤不連続面のせん断試験方法」会告原稿案
- 資料 19-1-2 :「岩盤不連続面のせん断試験方法」基準素案
- 資料 19-1-3 :編集工程
- 資料 19-1-4 :規格・基準一覧
- 資料 19-1-5 :執筆要領
- 資料 19-1-6-1(1) :WG1 物理特性(土と岩)のメンバー構成案および担当
- 資料 19-1-6-1(2) :WG1 物理特性(土と岩)の目次案(章のみ)
- 資料 19-1-6-1(3) :WG1 物理特性(土と岩)の目次案(章項目)
- 資料 19-1-6-2 :WG3 透水・圧密特性のメンバー構成案
- 資料 19-1-6-3 :WG4 力学特性(土と岩)のメンバー構成案
- 資料 19-1-6-4 :WG8(特殊土)のメンバー構成案、基本方針、目次案
- 資料 19-1-6-5 :第1回 WG6(ジオシンセティクス)議事録
- 資料 19-1-7-1 :刊行物の著作権等の帰属および取扱いに関する規程
- 資料 19-1-7-2 :前回赤本の承諾書例
- 資料 19-1-7-3 :前回承諾書回収リスト
- 資料 19-1-7-4 :「土質工学用語辞典」に関する著作者の権利の帰属について
- 資料 19-1-8 :会員からの質問文書例および回答文書例
- 資料 19-1-9-1 :しらす等の問題点
- 資料 19-1-9-2 :しらす基準の確認
- 資料 19-1-10 :平成18年度第2回室内試験規格・基準委員会議事録
- 資料 19-1-11 :第1回グループリーダー説明会議事録
- 資料 19-1-12 :平成19年度委員会およびWG 予算
- 資料 19-1-13-1 :刊行物の寄贈規程

資料 19-1-13-2 : 謝金支給規定

資料 19-1-14 : 赤本改訂版の冊子印刷・製本仮見積

資料 19-1-15 : 電子会議マニュアルおよび関係資料

資料 19-1-16 : 予算配分

議 題 :

【審議事項】

(1) 新規基準素案「岩盤不連続面のせん断試験方法」 (資料 19-1-1～2)

以下のような意見が出された。

- ・ タイトルは、「岩盤不連続面の室内一面せん断試験方法」とする。英語タイトルも室内という言葉を入れる必要がないか検討する。
- ・ 「1. 適用範囲」の JGS3511-2003 は JGS3511-2004 ではないか。
- ・ 「2. 引用基準」が公示中となっているが、まだ制定されていないのか確認する。
- ・ 「3. 定義」b), e) は、本文で出てきていないので必要ない。
- ・ 「3. 定義」h), i) の「整形」は、「成形」とする。
- ・ 「4.1 試験容器」b) 備考の「可動方向に対して水平」は、「可動方向に対して平行」。
- ・ 「図 4.1」の試料と供試体が何を指しているかわかりやすい図にする。
- ・ 「図 4.2」の文字を鮮明にする。
- ・ 「6.3 せん断力の載荷」b) の「備考 1」は「参考」ではないか。また、備考 5 の「微少」は「微小」ではないか。
- ・ 「7. 試験結果の整理」a) の式に単位も記入する。
- ・ 「図 7.1」「図 7.2」のタイトルは、「明確なせん断応力の最大値…」とする。
- ・ 「8.1 試料に関する事項」の 1 行目の「複数の供試体に対して…」は「複数の不連続面が異なる試料に対して…」ではないか。また、その後の「それぞれの供試体に対して…」は「それぞれの試料に対して…」ではないか。

その他気づいたところは、6/1(金)までに三谷委員に連絡する。修正案についてはメール審議を行い、承認後 7/12(木)に開催される基準部会に上申する。

(2) 赤本改訂関係 (資料 19-1-3～7)

・ 基本方針

第1回グループリーダー説明会の議事録が紹介され(資料 19-1-10～11)、執筆に関して原稿料(資料 19-1-13-1～2)は支払わない方針であることが伝えられた。価格の試算表が示され(資料 19-1-14)、5年ごとの改訂なので、できるだけ価格を抑える必要があり、ソフトカバーも考えられる。誤植程度の修正は問題ないが、文言を変える等の修正が発生した場合は、正式な改正手続きを取る必要がある。

・ メンバー案、目次案

WG1:メンバー案を認めた。目次案について紹介がなされた。第4編を第2編とすることが考えられる。岩盤の工学的分類法は、解説で軽く触れる程度にする。

WG2:CEC 試験については、改訂版に掲載できるように作業を進める。その他、カラム試験と長期環境安定性についても検討しているが、今回の改訂には間に合わない。すでにある基準に対しては、見直しおよびメンテナンスを行っていく。

WG3:透水と圧密は分けなくて作業を行う。6月のはじめまでに改訂の必要があるか見直し作業を行う。新規の基準はない。

WG4:メンバー案を認めた(1名は内諾待ち)。土関係の基準は見直し中、岩関係の基準については、改正は行わず、解説のみ新しい情報を追加する。

WG5:現在、基準の見直し作業を行っている。

WG6:ISOが絡んでくるので、すべての基準に対して見直しを行う。JISは2件、JGS基準が5,6件になる予定である。

WG8:メンバー案を認めた。基準はなく、解説のみ執筆する。新たに火山灰質土を加える。

- ・ 担当する規格・基準

担当する規格・基準を確認した。第1編総説の第1~3,6章は幹事会で対応する。土質試験機用力計基準はWG4に担当して頂く。付録の部分で、基準の履歴(改変経緯)も書いておく必要がある。

- ・ JGS 書式の JIS 書式化

今回の改訂では、JGS 書式の JIS 書式化は可能な範囲で行う。赤本には掲載しないが、英訳基準についても、できるだけ早く整備する。

- ・ 編集工程

編集工程が示され、期限厳守で行うことを確認した。

- ・ 執筆要領

基準部関連の原稿執筆要領が示された。これに従い執筆作業を進めていく。

- ・ 解説のページ数制限の有無

これまでは、解説にページ制限をつけてきた。詳しい解説は重宝されるので、あまり制限しない方が良いという意見も出された。次回の委員会までに各WGから大まかなページ数案を出して頂くこととした。

- ・ 前回の赤本改訂時の文章、図、表、写真の所在

最終の校正原稿の電子ファイルは存在しない。事務局にOCRでファイル化して頂き、細かいところの確認は各WGで行うこととした。

- ・ 著作権

図面の引用や、前回改訂時の文章を使う場合は著作権に関して十分注意する必要がある。資料として、学会の著作権の帰属や地盤工学用語辞典出版時の取扱いが紹介された。

- ・ その他(基準の分冊方法、冊子の名称、印刷部数、広告など)

基準の分冊方法、冊子の名称、印刷部数については、継続審議とする。

### (3)土質試験 - 基本と手引き - 改訂関係

赤本改訂後、できるだけ早く「土質試験 - 基本と手引き - 」の出版も行う必要がある。岩関

係は含めず大きな変更は行わない方針であることを確認した。前回の編集委員会委員長にお願いする方向で検討する。

(4) 会員からの質問対応 (資料 19-1-8)

会員からの質問に対する回答は、現在、幹事会で作成している。今後は、担当の WG に回答作成をお願いして、室内試験規格・基準委員会で審議して、質問者に回答を送付することとした。

(5) その他 (資料 19-1-9-1～2)

・ 試案の掲載

試案は赤本には掲載しないので、掲載する場合は、基準化して頂く。

・ 「地山しらすの判別分類」

この基準に関しては、赤本には地盤調査法で取り扱うことが書かれているが、現在の地盤調査法には載っていない。後藤委員長より、地盤調査規格・基準委員会に打診してみることにした。

・ 赤本と青本の共通編

すべてを網羅的に書くのは不可能である。地盤材料の分類のところのみ、体系的な取扱いを記述して頂く方向で考える。

・ ISO との関連の記述

室内試験関係は、ISO/TS がある。タイトルについては、学会の HP に掲載されている。必要に応じ、関連について記述して頂いても良い。

【報告事項】

(1) 平成 19 年度委員会および WG 予算 (資料 19-1-12)

平成 19 年度委員会および WG 予算が紹介された。一般会計と刊行事業特別会計に分かれており、各 WG は、この合計額を超えないように予算執行を行う。予算をオーバーする場合は、事前に幹事会に相談して頂く。予算削減のため、できるだけ電子会議を利用する必要がある。その他、基準部会の審議により、英訳基準のネイティブチェックの経費は出せることもある。

(2) 電子会議 (資料 19-1-15)

電子会議の導入方法が紹介された。

(3) その他

次回室内試験規格・基準委員会は 7 月 5 日(木) 14:20 より、第 42 回地盤工学研究発表会の会場で行う。